



通巻 No.250 2024年8月4日

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
<https://www.catholic-honjyo-church.org>

INDEX

- ☐ 「夏の祈り」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- ☐ 「司牧評議会からのお知らせ」
- ☐ その他

「夏の祈り」

主任司祭 パウロ 豊島 治

暑中お見舞い申し上げます

いつものことのように感じますが酷暑です。長期間にわたっていますので皆様無理しないように。二十年前よりも平均気温は五度以上ですし、最低気温が真夏日の気温とでています。外に出る時間を考えるレベルです。暑いからせっかちになるのではなく、気持ちをクールに適應してください。

八月は平和旬間です。ご存知のとおり八〇年代に聖ヨハネ・パウロ二世教皇の来日によってこの期間がはじまりました。このとき私は未成年でしたが、記憶にあります。たしか侍者は当時神学生だった幸田司教様でした。その式典に行く途中、新宿と有楽町のあたりの高架下にはうずくまるひとを見かけたものです。駅前では軍歌を大音響で流す車をみました。

傷痍軍人という言葉をご存知でしょうか。戦争によって傷痍を負った兵士のことです。足を引きずりながら決して清潔とはいえない毛布をまといて往来していました。戦中は名誉の負傷とされましたが、ポツダム宣言後恩給が打ち切られその後支援の改善ははじまりましたが、まだ問題が

あるときいています。

その数日前、今は亡き西川神父様と（当時通っていた教会の司祭でいらっしやいました）新宿のガード下でうずくまっていた方から手招きされました。神父様と目でどうしようか確認して、二人で近づいたのです。服装はなんとなくカーキ色でなにかの制服かなとそのとき思いました。くしゃくしゃの紙をニコニコしながら差出してくださり、神父様が広げて見せてくれました。そこには「恩給証書」とあり、そのうえに赤い斜線がされており、消印がおされていました。何を意味しているのかわかりませんでした。期待が成就しなかった感じが伝わり、切ない気持ちになって二人無言で歩いたのでした。あのニコニコは証書がもらえたからではなく、足を止めた二人がきたということの表情でしょう。そんな当時だからこそ、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が一生懸命さを感じる日本語で

「戦争は人間の仕業です。戦争は死です」

とマイクにのって広まったお気持ち。は確かに胸をうちました。

この平和アピールから四十三年を経た今年の菊地大司教による司教協議会長の平和旬間にあたったの談話『無関心はいのちを奪います』の最後の段落に記されています。

『わたしたちは過去の過ちに謙遜に学び、その過ちを繰り返さないよう

に努めることができるはず。幾たびも目撃してきたいのちに対する暴力を止めることができるのは、わたしたち自身です。』

この数年教区の平和旬間の担い手の委員会は解散され、新しく結成された「カリタス東京」という団体によってアレレンジがされています。ですから各教会の持ち回りの企画実行はなくなり楽にはなりました。でも誰かひとりが平和旬間の幟をたてただけでは無関心が広がるスピードが速まるだけです。

今年から本所教会として石原三丁目（新橋行き）バス停裏にある『殉職慰霊碑』に終戦の日、すなわち聖母被昇天のミサ後にそこに赴いて追悼の祈りを行います。教会周辺が焼け野原になったのでたくさん祈りをささげる場所があるのは承知していますが、これから恒久的に聖母被昇天ミサ後に祈りにいくことを評議会でも認めてもらいました。

三月十日の東京大空襲があったとき十五歳を最年少とする電話交換手三十一名は「なにがあってもブレスト（送受器）を手放してはならない」という命令をもとに炎の中にて死亡しました。この碑は二度とこのような悲劇の起こらないことを祈願して昭和三十三年に建立されました。教会にいらっしやる方が利用されるバス停のすぐ裏です。ご一緒に祈れば幸いです。無関心の反対語は関心をもつことですから。